

書 評

スーザン・P・マターン著, 澤井 直訳

『ガレノス：西洋医学を支配したローマ帝国の医師』…………… 鈴木 晃仁 447

日仏薬学会, 日本薬史学会誌

『薬学の歴史 くすり・軟膏・毒物』…………… 坂井 建雄 448

書籍紹介

編集執筆責任者：小曾戸洋, 共編校訂者：町泉寿郎

『杏雨書屋所蔵 医家肖像集 二編』…………… 平松 賢二 450

投稿規定…………… 452

編集後記…………… 454

日本医史学雑誌 第64巻 総目次…………… 455

日本医史学会会報…………… 462

《本号の表紙絵》

「放痘大極之図」

(中島医家資料館所蔵『周陽池田瑞仙唇舌図訣』

(外題による。『戴曼公唇舌図訣』の写本と思われる)より)

戴曼公(1596~1673)は明・杭州の人で, 龔廷賢に医学を学び, 明の滅亡にともない1653(承応2)年に日本に渡来・帰化した。特に痘科に秀で, 周防岩国で池田正直にその術を伝授し, 正直を曾祖とする池田瑞仙はこの術をもって幕府医官になったと言われている。『周陽池田瑞仙唇舌図訣』(『戴曼公唇舌図訣』)は, この戴曼公から池田家に伝えられた天然痘の治療技術の書であり, 「放痘大極之図」は同書内の図のひとつである。なお, 国立国会図書館所蔵の『戴曼公唇舌祕方』では, 図のタイトルが「痘放苗大極之図」となっている。

(松村 紀明)